信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

４年２組

１１７日の紙ヒコーキ
～「紙ヒコーキ」から「相棒」へ～

紙ヒコーキは奥が深い！

「先生、紙ヒコーキって奥が深いね！」と話しに来る子どもたち。「どうして？」と聞くと、「だって、折り方や昇降舵（しょうこうだ）の向きをちょっと変えただけで、飛距離がぜんぜん変わるんだもん！すごいよこれ！」と、嬉しそうに答えてくれました。

４年２組では、総合的な学習の時間に紙ヒコーキを追究しています。最初は「もしかしたら子どもたちはすぐにこの学習に飽きてしまうのではないだろうか」と心配でしたが、今では、紙ヒコーキの奥深さに魅了され、主体的に追究する姿が見られます。右の写真は紙ヒコーキの「翼」になったつもりで走り、風を感じているところです。ただ飛ばすだけではなく、紙ヒコーキを五感で味わおうとする子どもの姿に感動しました。

紙ヒコーキを通して

紙ヒコーキ（７月時点）を通して、子どもたちは多くのことを学んでいます。まず、紙ヒコーキを作る場面では、算数の「平行・垂直」の大切さを実感しています。なぜなら、まっすぐに折らないと紙ヒコーキはそれだけで飛距離が伸びません。折り方一つで紙ヒコーキの飛距離が変わります。また、指先を上手に使い、丁寧に作ることもできるようになってきました。

> 紙ヒコーキは、ちゃんときっちりきれいに折るとよく飛ぶことが分かりました。つばさを平行に折ることも大切です。（振り返りより）

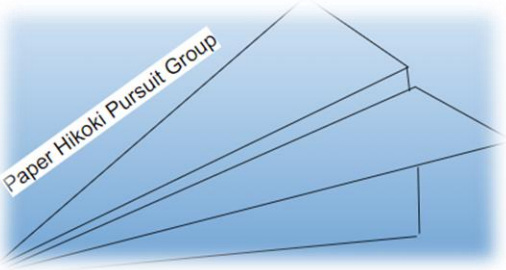
紙ヒコーキ作りでは、友だちとの関わりも多く生まれています。「ここはどう折るの？」「いいよ！教えてあげる」「この紙ヒコーキは A 君が得意だから教えてもらうといいよ」「一緒に飛ばしに行こうよ」など、友だちとの温かい関わりが、見ていてとても微笑ましいです。

> 紙ヒコーキで楽しかったことは、友だちの輪を広げられたことです。広げたことで、あまり話をしなかった子と仲よくなれたのがうれしかったです。（振り返りより）

６月のある日、「先生、僕の相棒知りませんか？」と質問されました。「誰のことかな？」と質問し返すと、「僕の紙ヒコーキですよ！」と教えてくれました。「なんで相棒なの？」と質問すると、「だって僕が気持ちを込めて一生懸命作ったんだもん。だから『相棒』なの。」と教えてくれました。自分で作った物への愛着をもち、物を大切にする心まで育ませてくれる紙ヒコーキは、本当に奥が深いです。

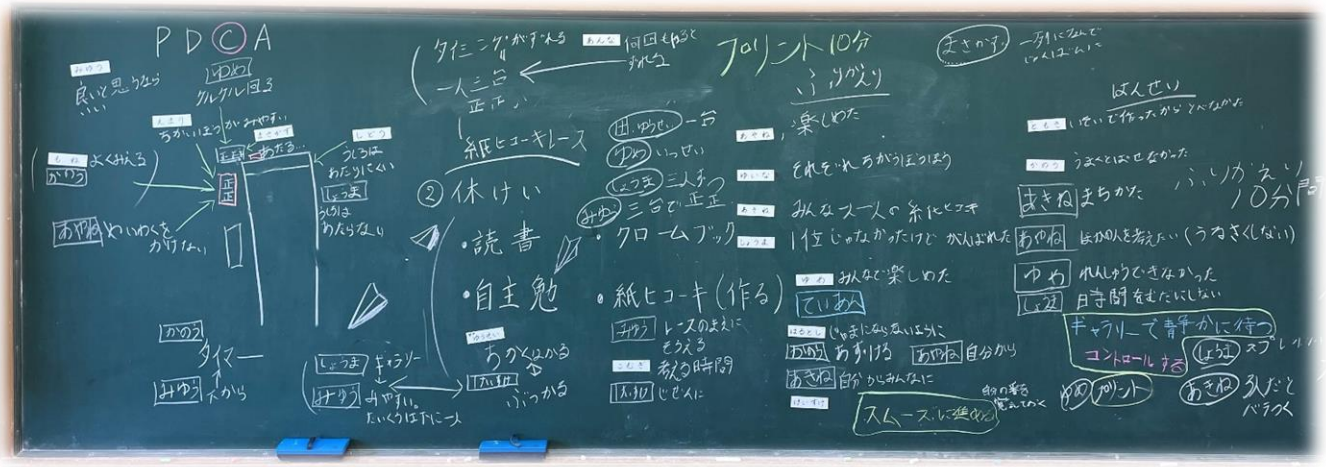
紙ヒコーキ追究班

紙ヒコーキの学習を進めていく中で、子どもたちの中から「紙ヒコーキ追究班をつくりたい」という声が上がってきました。メンバーは最初３人でしたが、続々と人数が増えています。右の写真は追究班が自ら考えて作ったロゴです。紙ヒコーキへの愛着が日に日に増しています。



追究班の活動は、主に「紙ヒコーキレースの開催」と、飛ばなくなった紙ヒコーキの「回収」です。レースでは「みんなにもっと紙ヒコーキを好きになってほしい」「楽しんでほしい」という思いが込められています。どのようなルールにするのか、Google の Forms を活用してクラスの意見をまとめていました。

回収活動は、廊下に落ちている紙ヒコーキを見て、「紙という資源を大切にしてほしい」という思いからスタートしました。追究班のメンバーで「紙ヒコーキ回収 BOX」を作り、回収 BOX に入れられた紙ヒコーキを平らにして、再利用できるようにしていました。これらのことを、子どもたち自らが課題としてとらえ、解決のために計画を立て、行動している姿が見ていてとてもたくましいです。

レース後の振り返りでは、たくさんの意見が出されました。一人一人の意見を丁寧に板書し、応えている追究班。「次はどうしたらいいのか」真剣に意見を出し合う子どもたち。今回出された意見を取り入れ、よりよいものをクラス全体でつくり上げていきたいと思います。

これから、紙ヒコーキが４年２組に何を乗せてきてくれるのか、子どもたちにどのような学びを与えてくれるのか、とても楽しみです。